

# NIKKEI DESIGN

No Design, No Business

特集1  
心に届く「動き」と「変化」のデザイン



特集2 ショップデザイン  
明暗が作り出す魅惑の空間  
短期集中連載 知財講座  
デザイン・リスク・マネジメント入門

5  
2008



次から次へ、  
マジックのごとく繰り返し開く



# 展開する

part 2 思わず微笑むカラクリ大全



美創印刷

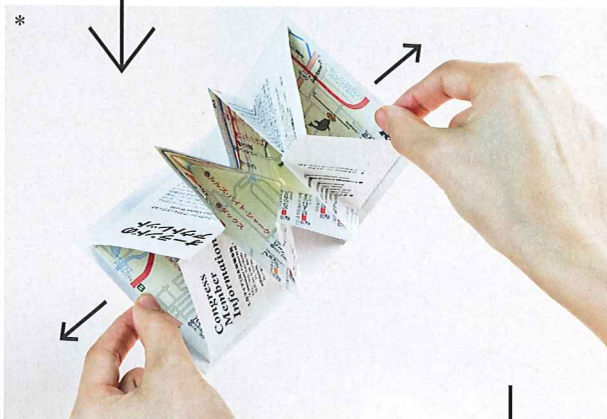
## 1枚の紙に付加価値を持たせる仕掛け



フラッパー／左右、上下と順に観音開きをしていくと、1面から4面まで違う印刷面が現れる。パタパタと開く様子は、マジックでも見ているかのようで、なかなか手を止められない

1枚の紙がパタパタと観音開きを繰り返し、1面から4面まで、違う印刷面を見せる。このユニークな紙を作っているのが美創印刷だ。紙の構造は、米国のストラクチュアル・グラフィックス社が特許を持っている。この会社と契約を結ぶ美創印刷が「フラッパー」という商品名

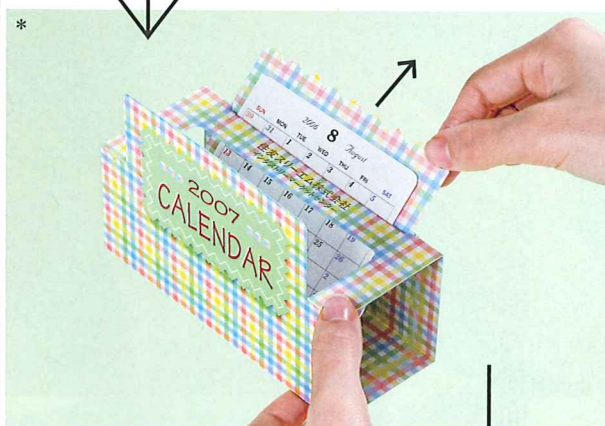
## 2つ折りの紙を開くと、大きな紙に！



\*  
フォールディングマップ／  
2つに折りたたまれたカード  
の両端を持って、バツと開  
くと、大きな紙が出てくる。  
折り目がしっかりと付いて  
いるので、閉じると自然に  
紙が折りたたまれる



## 真ん中から飛び出す1枚のカード



\*  
ポップアップスタンド／  
カードの上部を押し下げ  
ると、真ん中から1枚の  
カードがニョキッと出てくる。外  
側のカードは土台となり、  
真ん中のカードを固定。メッ  
セージを差し込んだり、カ  
レンダー立てにしたり、活  
用の幅は広い



にして、印刷を受注している。

村上一宏・社長がこの紙に出会ったのは、2002年米国シカゴで開催された印刷専門の展示会だった。「会場でもらったサンプルを帰りの飛行機の中で見てみたらびっくりした。すぐに紙を分解して、その面白い構造を知った」と、村上

社長はその時の衝撃を話す。

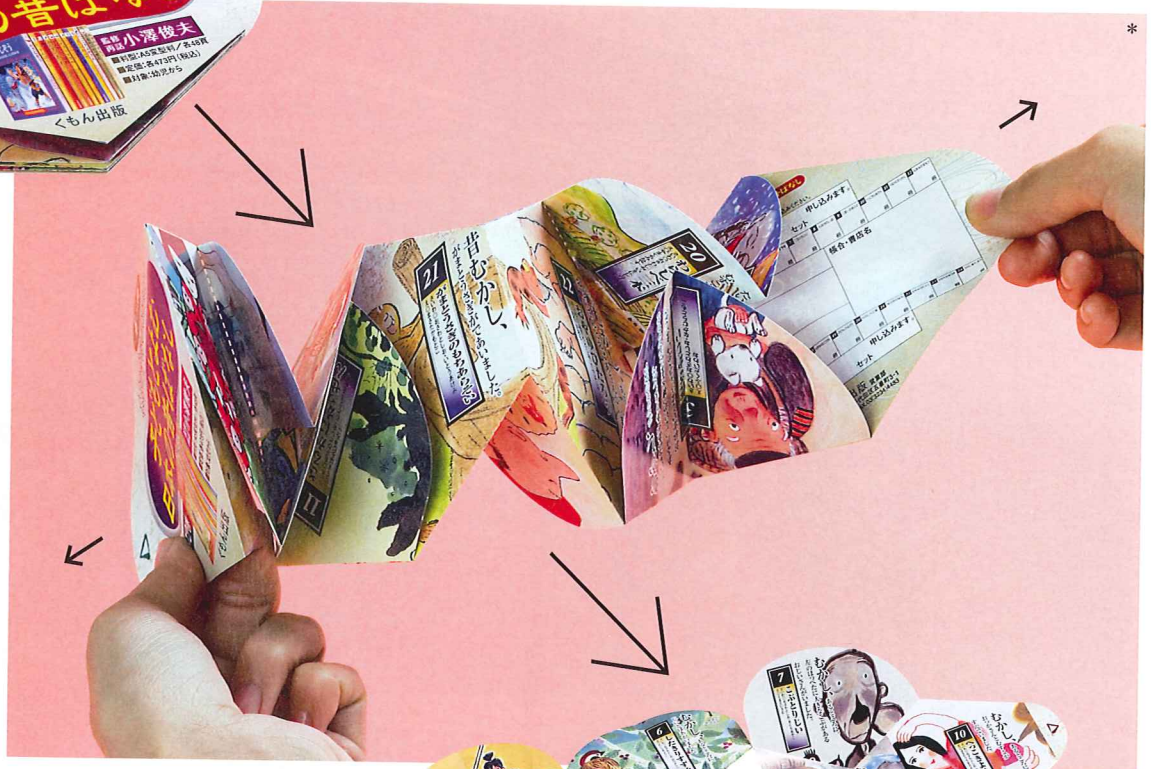
すぐさま特許番号を調べて、再び米国へ飛んで契約を申請した。そこまで情熱を持って取り組んだのは「印刷会社として紙自体に商品価値が欲しいと以前から思っていた。1枚の紙に動きや構造を取り込んで付加価値を込められたらいい」

という考えに合致したからだ。

美創印刷は化粧品の箱や小冊子、POPなどの商業印刷を扱っている。箱のような三次元構造の印刷ができる機械があれば、このような特殊構造の印刷は可能だった。つまり新たな設備投資の必要がないことも、事業を後押しした。



あれよあれよと続く、六角形の紙面



マルチリーフ／両端を持って左右に引っ張ると、亀の甲羅のように配列された、いくつもの六角形の紙面が現れる。山折りと谷折りの仕組みによって、元に戻せば、自然と手の平に収まるコンパクトサイズに。7面と13面の2種類あり

4面にわたって展開するフラッパーは、複雑な仕組みに見えるが、実は1枚の紙から出来ている。糊付けされた個所を剥がすと、一部の切り込みと折り込みだけで成り立っているのが分かる。こう種明かしをされると、最初はあ然とする。しかし「商品にするには機械化できることが重要。そのためにはシンプルな構造でなければいけない」と村上社長は解説する。

また特許契約を結べても、それを実際に製作できるかどうかは別問題だ。フラッパーに関しては、裏表の配置を寸分違わずに印刷し、カットする技術が求められる。箱の印刷よりも精度が厳しく問われるため、当初はそれに苦勞した。

### 印刷技術の習得がアイデアの源に

しかし苦勞は現場の技術習得と研究につながった。次第に美創印刷では、スト



開ければ、  
スツと飛び出る  
円形POP



スライドメディアケース／本を開くように開けると、自動的に横に飛び出してくる円形のPOP。CDやDVDケースとして重宝する

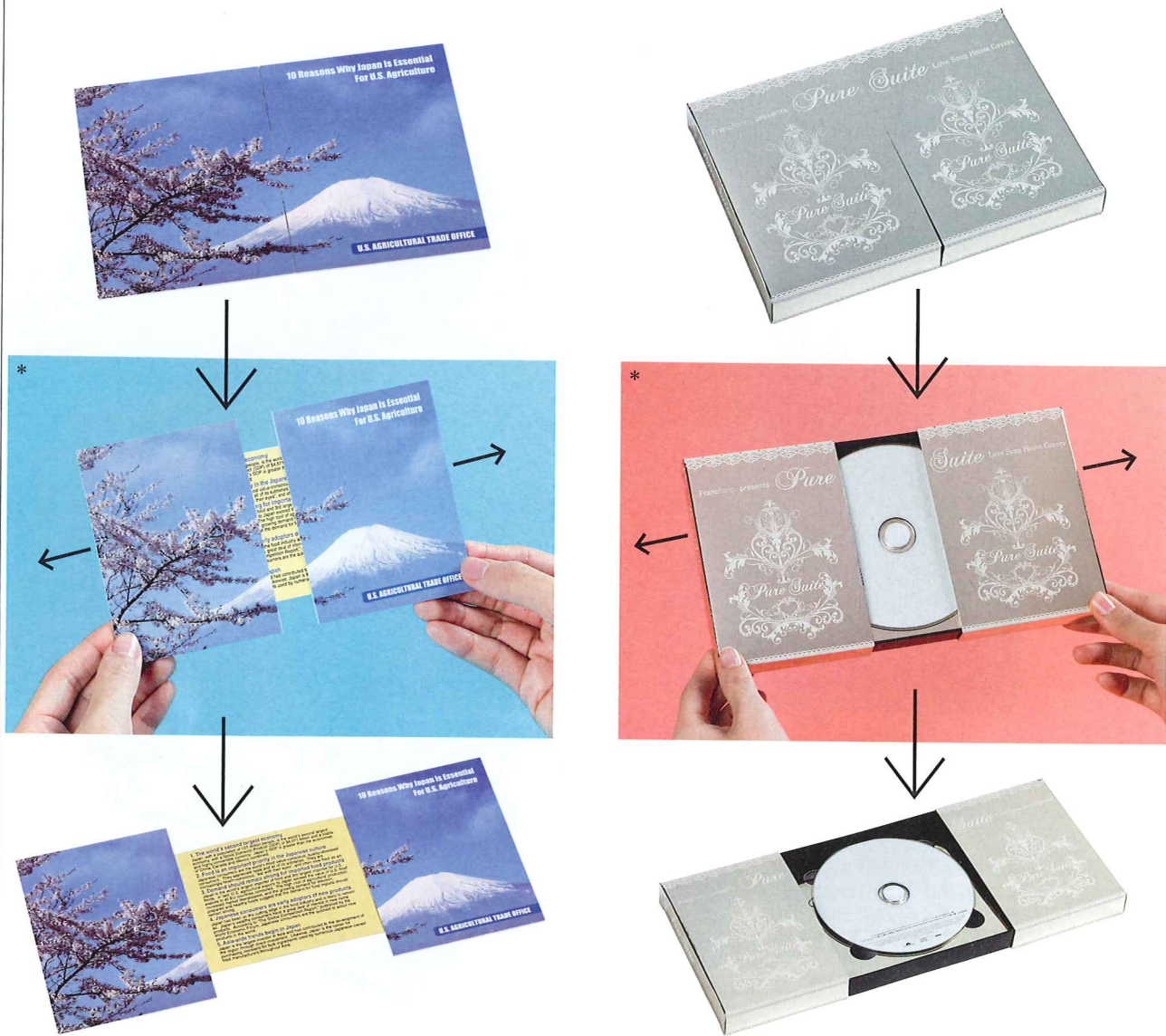


ラクチュアル・グラフィックス社の特許以外にも、自分たちの手で新しい紙の構造を生み出すまでに成長した。一度、紙の癖が分かれば、どのように折ったり、抜いたり、貼ったりすれば、どういう構造になるのかが分かるようになる。つまり紙の動きを理解することで、次なるアイデアが生まれるようになったのだ。こうして現場の声から、オリジナルの構造が次から次へと生まれていった。

その1つが実用新案登録された「フォルディングマップ」だ。山折りと谷折りの組み合わせによって、2つ折りの紙から大きな紙が飛び出すという仕掛け。また2つ折りのケースを開くと、内側からもう1枚の円形POPが飛び出す「スライドメディアケース」や、カードの両端を引っ張ると、中から新たな紙面が出てくる「オープンカード」なども、美創印刷が独自に開発した商品だ。

「情報伝達ツールとして、紙でできることはまだまだたくさん残っている」と村上社長は言う。では、紙に動きが加わることで得られる大きなメリットは何なのか。「動きがあることで、人の手に残る時間が長くなる。DMやチラシは見もせず捨てられることが多いが、動きの仕掛けがあることで目に留めてもらえる。それは情報伝達ツールには重要なこと」。例えばある玩具メーカーがウェブサイ

## 両端をスッと引っ張れば、中にもう1枚



オープンカード／カードの両端を引っ張ると、中から新たな紙面が登場する。伸びたり、縮んだりという展開は、使い方次第で面白いビジュアル効果を上げる。カードを箱に変えれば、ユニークなケースとしても使える

トを立ち上げた際に、ウェブ会員を募集するチラシを店頭で顧客に渡したが、なかなかアクセス数が伸びないことがあった。そこで美創印刷の「ポップアップスタンド」をパソコンに見立てて、ウェブサイトへの誘導ツールとして用いたところ、アクセス数が急増したと言う。まさ

に動きの効果を証明する事例だ。

### 動きを生かすデザインとは？

現在、フラッパーを用いた名刺の需要がもっとも増えている。コスト削減を図り、100枚単位で1万数千円から受注できるため、個人客の利用も多い。そこで

「もっと個人客が利用しやすいように、名刺のデザインのフォーマットを考えて提案したい」と話す。

「今まで構造の開発はしてきたが、そこにデザインどうを加えるのかが今後の課題」だと言う。紙の動きのデザインに、さらなる発展が見られそうだ。